

全国子ども農山漁村交流プロジェクト 推進シンポジウム ——参加レポート——

Reporter: 岡本直村

平成22年5月20日(木) 13:30~16:30 約3時間向の
シンポジウムが国立オリンピック記念青少年総合センター
にて開かれた。主催は総務省、文部科学省、農林
水産省の三省合同で後援は全国知事会、全国市長会、
全国町村会、オライニッポン会議であった。今回で
まちむら交流きこいの関係にイベント参加は二度目である。
大会運営はやはり手慣れたスムーズなものであった。

■プログラム及び■各スピーカーのプロファイルは^{#1}資料を
参照

シンポジウムは三つの柱からなっていた。

- ① 3名による事例報告
- ② 3名とコーディネーターを加えたパネルディスカッション
- ③ リー講演、園を代表して3省のそれぞれの役人
による取り組みについての話しの後、新たな4名を
加えて講演があった。

⑦ 事例報告について

どのスピーカーにも共通していた認識として、子ども
たちの現地での滞在期間によって効果は大きな
差が出るという点であった

具体的に1泊2泊3泊 3泊よりもと長く、学校
によっては7泊というロングステイ程、子供たちはより
深く自然を理解し、自主性も生まれ、活発に活動
を始めるという事だ。特に3泊~4泊目がキー
ポイントらしく、時間的に余裕があるため、子どもたちが
より廻りを見る余裕ができ、自主的・能動的に動き
始める。そのことについて真の体験・感動が得られる
との話。非常に理解しやすい話ではある。

ただし実行ということになると①お金の問題...誰が負
担するのか②学校側のどういったアクティビティに取り組む
姿勢...積極性③保護者の理解④受け入れ側の
本気度等が問題として浮んでくるようだ。

② パネルディスカッション

スピーカーはそれぞれ子供達を送る側、中向で学校
と受け手側のコーディネートする人達、受け手側の代表
とそれぞれ立場の違う人々でそれぞれの事例を語
ってワケだが、ここで心に残った言葉の教訓を列記し
てみる。

- 現代は学校力が向われている(鳥山)
- 受け入れ側の忙しさを子どもたちを多様扱い
することから生じている(谷脇)
- 和歌山では受け入れ側にお試し制度をどうやって
民泊・ホームステイのハードルを低くする努力をしている(谷脇)

③ リレー講演

国を代表しての役人の発言は今の行政
を直し連年を強めてゆくという決意表明と
今回の民主党による事業仕分けによる全面子家
補助の対象であった子どもプロジェクトが国と
地方(県)とに分かれたため様々な面でご尽力
頂いている方々にごめいゆく... 発言。

SPEAKER 守田 喜憲 (国際日本文化研究センター教授)

日本民族がいかに関々と森林保護を行ってきたか。
その反面ヨーロッパ・中国大陸・北米は森林伐採
の丁度であった。ドイツの森はたかだか100年の植林
中国・漢民族は緑を必要としない人々、等々...
語は北海道等で買収して土地を外国資本に
売っているがそれは国内にそういう森林破壊の
DNAを持つ人々を呼び込む行為である。早と
かり 過激 一歩手前の憂国士であった

SPEAKER 杉田 洋 (国立教育政策研究所 調査官)

子どもプロジェクトの今の反省点としてプログラムの
コンビニ化がある。学校側もそのXニューの豊かさ
に飛びつく傾向がある。何でも良いから子ども達には
一つのどっぶり感が必要。 平素無事の2泊3日のキャンプ
体験は何も残らない。

SPEAKER 宮口 侗迪 (早稲田大学 教育・総合科学学術院)
教授

米のカ、サステナビリティは本来寒冷地である
東北地方でも年1回の収穫で人々を養って来た
力を見れば自明である。世界屈指の農業適地で
ある日本列島 -- その農業を荒捨てさせてどうする...
又、宮口氏の目は農業そのもののたぐいまに美を
訴えている。その中にはその土地の気候風土から生ま
れた様々なフラグの仕掛け等... 最近、農家
人々もその美に気付き始め昔のやり方に力を与えるところ
で来た。

かかりに、

休けいを入れて3時間という中で発言者の教が
多過ぎた感じ。せめてスピーカーの教を半教に
すればもう少しトアツ感が出たと思う。

P.S. 杉田洋氏の発表の中に「パロディ詩として
「雨ニモアテズ」があった。現代の子の肉題の
奥深さをあらためて考えさせられるものなので
次頁に全文/セル。

(持ち帰り資料) 子アロジニア 2010

1. 農山漁村での長期宿泊体験による教育効果について(報告)/グリーン農誌, A4, 70P.

2. 各スピーカー 補足資料

4. 学入安全管理マニュアル, A4, 8P

3. ふるさと子ども夢学校. (滋賀県) DVD

○ PHOTO: 園本 撮影.

現代っ子版「雨ニモアテズ」の校長作

雨にもあてず 風にもあてず 雪にも
夏の暑さにもあてず / ばばぶつはの体に 沢山着込み
意欲もなく 体カも弱く / いつもぶつぶつ 不満を言っている

- ▷ 毎日塾に追われ テレビに吸いついて怠はず
朝からあくびを 集会からあやば貧血を起こし
あやうごとを 自分のためだけ考えてかえりみず
作業はぐずぐず 注意散漫しすぐに食後
それ 行く忘れ / リア子母家の 自分の部屋 肉じにちかいて
- ▷ 東に病人あやば 医者か悪いと言ひ
西に寝た母あやば 養老院に行けと言ひ
南に死にどうも 人あやば 寿命だと言ひ
北にけんかやえしあやば 非難めてかわゆるす

- ▷ ひどりの時は 冷病をツケ
みんなに 勉強勉強と言われ
叱られもせず 怖いものもしらす
- ▷ こんで現代っ子に なみかした